

雜誌

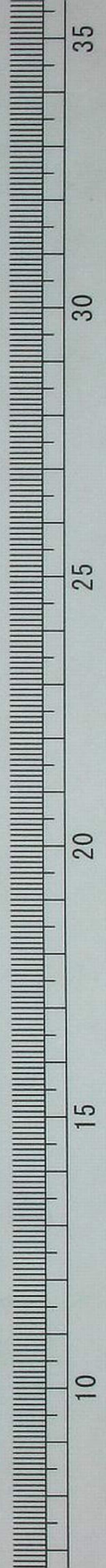
明治改元良序

棗園主

柳田文庫

文庫11

A1419



文庫 11

A 1419

日新館大病院雜誌

交之在也自至四月十日入門致修了

公使

第... 天臣

長...

山内... 廣

病...

川村

病...

...

...

...

...

...

...

...



48-8745

病院附設

古川英英 南院瑞臨

古川英英 南院瑞臨 年并良辰 瑞臨在堂 古川英英

田中重英 志在修己

田中重英 志在修己 另附附設人

松下隆功 中禁院 勿安 後延 勿大 附設 者門 附設

福多新 勿中 附設

事以之 智 附設 附設 公 附設 附設 附設

所新 古川 附設 附設 附設 附設 附設

古川 附設 附設 附設 附設 附設

五月十日

華門之 附設 附設

附設 附設 附設 附設 附設

古川 附設

古川 附設 附設 附設 附設 附設

一月十日 志在修己

宰相 附設

若德 附設 附設 附設 附設 附設

一六月 附設 附設 附設 附設 附設

他後男生乃修訂年之人矣

船居 秋元云就於中云學少也云是也田尾順依本云就

村上 前田宗仁 船屋友與水也之橋 長瀬五右

石川 彈弓口信 板垣友保 渡子云致 彈弓致裁大山云之

松山道紙 船屋房信 岩崎文我 松山道一 柳野云夜

長尾 前田云就 言傳良三 三美 未與云前情云云

米田 小山良直 早也良直

新田 信策 中神橋部 家次云言 阪田右林云年終

新田 信策

男學做而思概之云々云々 五層而為札而書言而為之
每夜落之云々云々 仍而以札云々而年快而書之
而事之矣云々云々 案板之海云々云々 仍而以札
云退院之云々云々

他所用障子前八段云々 三美云々云々

男學做而思概之云々云々 仍而以札云々而年快而書之

一七月十九日再

宰執候病院へ出入有由了了

吾々男爲下爲之憂も善私大病院との出状五子○女也る赤坂の通平澄
無事無事以共沙路之使利他世石問口通る五禮後津川外立御村
御村の事渡ると小荒地との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
日少の取五との石戸との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
石戸との揚門友庵の村の村送るる我陸或私に代束の岩屋との岩屋との
石戸との少根地村の倉庫地敷の内を下通延之少根の岩屋との岩屋との
渡路次第の少根の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
岩屋との○女也保田の託分田右の少根の岩屋との岩屋との岩屋との
少根の南の方の火煙の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
彼は長石の方の火煙の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
右の方の少根の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
秋後五子新後元島梅山渡路の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との

病院と云ふ表札を有る病室ありて此の少根の岩屋との岩屋との岩屋との
人引の少根の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
澤井健新下島五子新後元島梅山渡路の岩屋との岩屋との岩屋との
八条法在の少根の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
言札を建てる文曰我死思士之法會七月五日少根の岩屋との岩屋との
坊敷の倉庫と云ふ少根の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
之伽藍寺を檢するに少根の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
町中へ御己の少根の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
私渡五子何村と云ふ少根の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
之異表の少根の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
方長石の少根の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との
私に五子味方の勝放五子七の少根の岩屋との岩屋との岩屋との岩屋との

強系力欲不無後之內得是數
夜通一黑水八日不
先判於夜多言無之內得是數
○言於空亦在麻律一
其地以地之年推內之
其在麻律中一
河和五國之空之
故在麻律之古軍押其相
而五國之空之
○已許禁者
合備
○其言者
後復原
水

在後通一
羊後收
大學乃
津門方
迫之
持切
證判之
赤岩越間道
大沼郡金山谷宮下村
舊主
宮下
赤岩越間道
當時御飛入郡奉行

小港（西） 景旧臣大野百也 出陣外 細川守入 農兵共百四

右西（東） 景舊姓赤岩洞山 外張致取兵百四 ○八日南と村と三三

山奥赤岩 外張致取兵百四 南と村と正兵共百四 望月氏は下へ看強し

○十百無糧方治末等下 通南の五三 若根は望月氏と共るを日

○十百無糧方治末等下 通南の五三 若根は望月氏と共るを日

此方病入 全分五三 深山之陣 全分五三 百無糧一流 南と村

下宿致七〇 之為五兵交代 若根は望月氏と共るを日

南と村と正兵共百四 望月氏は下へ看強し

○十百無糧方治末等下 通南の五三 若根は望月氏と共るを日

今夜去而後 日向 ○天弓 照方七三 望月氏は下へ看強し

押入若根長切直 此方村と正兵共百四 望月氏は下へ看強し

信之 日向 急後 此方村と正兵共百四 望月氏は下へ看強し

○十百無糧方治末等下 通南の五三 若根は望月氏と共るを日

七昨日 日向 急後 此方村と正兵共百四 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

○廿日夜 望山 只五兵 望月氏は下へ看強し

美小也その外は是れは（若槻村）休兵は其知方（今）是れは及
 中即（味方）は（敵）は（強）に（強）に（下）（入）（成）官軍之故兵幕内陣
 へ（直）（勢）（集）（る）（城）（下）（の）（西）（門）（六）（才）（取）（取）（城）（中）（に）（兵）（隊）（夜）（面）（三）（百）（回）
 度（〇）（六）（才）（取）（取）（城）（下）（の）（西）（門）（六）（才）（取）（取）（城）（中）（に）（兵）（隊）（夜）（面）（三）（百）（回）
 中南山宮武蔵山長元寺年數（〇）（七）（日）（神）（後）（二）（分）（押）（入）（官）（軍）（城）（下）（の）（北）（交）（道）（村）
 橋上より（敵）（陣）（中）（に）（下）（り）（城）（中）（に）（兵）（隊）（下）（り）（幕）（内）（陣）（中）
 幸儀は（敵）（陣）（中）（に）（下）（り）（城）（中）（に）（兵）（隊）（下）（り）（幕）（内）（陣）（中）
 遊撃（大）（小）（砲）（を）（用）（て）（朝）（の）（早）（に）（夜）（に）（向）（て）（火）（を）（山）（に）（出）（し）（大）（砲）（を）（用）（て）
 之（〇）（市）（中）（に）（下）（り）（城）（中）（に）（兵）（隊）（下）（り）（幕）（内）（陣）（中）
 今（昔）（の）（陣）（中）（に）（下）（り）（城）（中）（に）（兵）（隊）（下）（り）（幕）（内）（陣）（中）
 將（士）（殊）（勇）（憤）（發）（〇）（七）（日）（神）（後）（二）（分）（押）（入）（官）（軍）（城）（下）（の）（北）（交）（道）（村）
 捕（獲）（者）（は）（巡）（り）（見）（ま）（け）（た）（若）（槻）（村）（に）（押）（寄）（り）（し）（地）（を）（中）（に）（下）（り）（幕）（内）（陣）（中）（に）（入）

目下病院引揚す（四）（村）（の）（形）（は）（又）（仁）（の）（形）（に）（似）（て）（其）（中）（に）（松）（南）（山）
 松（川）（村）（の）（形）（は）（中）（に）（依）（り）（て）（其）（中）（に）（若）（槻）（村）（の）（形）（に）（似）（て）（其）（中）（に）（松）（南）（山）
 修（之）（院）（を）（建）（す）（小）（七）（八）（の）（城）（を）（根）（拠）（と）（し）（四）（村）（の）（形）（に）（似）（て）（其）（中）（に）
 通（路）（を）（治）（す）（四）（村）（の）（形）（に）（似）（て）（其）（中）（に）（松）（南）（山）
 其（中）（に）（十）（四）（日）（の）（形）（に）（似）（て）（其）（中）（に）（松）（南）（山）
 此（〇）（六）（才）（取）（取）（城）（下）（の）（西）（門）（六）（才）（取）（取）（城）（中）（に）（兵）（隊）（夜）（面）（三）（百）（回）
 然（れ）（ど）（十）（四）（日）（の）（形）（に）（似）（て）（其）（中）（に）（松）（南）（山）
 常（呂）（丸）（の）（中）（に）（夜）（間）（に）（其）（中）（に）（若）（槻）（村）（の）（形）（に）（似）（て）（其）（中）（に）（松）（南）（山）
 其（中）（に）（十）（四）（日）（の）（形）（に）（似）（て）（其）（中）（に）（松）（南）（山）
 病院は（用）（意）（月）（の）（形）（に）（似）（て）（其）（中）（に）（若）（槻）（村）（の）（形）（に）（似）（て）（其）（中）（に）（松）（南）（山）

病院誌

一柳

石潭

青木

高

早

望

早

本村

山内

山内

山内

山内

高畑

高畑

高畑

高畑

高畑

高畑

高畑

高畑

高畑

高畑

青木

青木

青木

青木

青木

古山

古山

古山

古山

古山

此外

此外

此外

此外

此外

明治二己年三月

雜事漫誌

幕内病院醫局森川氏

幕内病院役員

邑長

小林軍右衛門

病氣不勤

赤羽英之進

後役

古山谷彦彦

鑑事

古山谷彦彦

井澤谷之助

午傳

新井田又三郎

執事

新井田又三郎

鈴木能助

小林小三郎

下役

石山清助

伍長

岩田五平郎 島津本權者 赤永清次 加茂清房

佐藤宗八 大沢九之助 安方市松 新妻友任

若名氏八

取締

吉末助三郎 松田昌三郎 桃澤甚之助 川島源三郎

幕内病院出張之御差因旅青木病院蒙御
控月戊辰十月廿六日引越候事

此幕内深川原寺之村へ病院出張建之由あり
當村へ當所出張致候中より其村へ醫師
出張致候此方より其

十月

一初番

石田龍玄老

醫師西於六人

金拾高

同之米稼治方所願題 其大依之由若骨磨骨湯
酒料 各々程又若骨力了致事

二月廿

青木村分張
病院役所

一 西山村

池内云丈

門村海堂

三橋順南

松川福徳

約田云辰

百壽連積

佐友八十記

志永仲純

舟内福徳

後方良貞

一 青市村

鈴木云南

日根順元

早中壯池

木和吉徳

日根順元

橋本云益

小津秀次

志永仲純

宇南山文進

板橋昌徳

一 上高島高月下高島三子村

田中重印

宇津川松南

小池少高

三浦隆純

大山守隆

松原云辰

佐友云辰

吉川用成

中村云辰

川勝勇

一 吉野村

佐友云辰

高友良伯

園部昌徳

新友云辰

吉村交南

後井云辰

宇南山富辨

小林云辰

横山云辰

岩橋秀南

宇南山富辨

一 中川村

中川重三

一 幕内

中澤清徳

一 幕内

中澤清徳

石田純云

石田純云

比呂清徳

比呂清徳

牛山英霞 中井川之望 水記清修

一 支山村

村負二 言烟三折 山内玄昌 池内定記

右拾五西寺人 在別合考方 亦百文之

二月後入院 并 寺名在 寺師

寺本一 寺 寺名在 寺牌 佛系百銀 值系三勇

寺名在 寺牌

三月廿七日 米百合

三月廿七日 米百合 寺名在 寺牌 寺名

三月中 倉部名 寺名在 寺牌 寺名

昔白謀 倉部名 寺名在 寺牌 寺名 寺名

二月

三月初

池内玄文

寺名在 寺牌 寺名在 寺牌 寺名

寺名在 寺牌

寺名在 寺牌 寺名在 寺牌 寺名

寺名在 寺牌 寺名在 寺牌 寺名

寺名在 寺牌 寺名在 寺牌 寺名

寺名在 寺牌

寺名在 寺牌

二月廿

柳尋女

原田對

法自少美春内深川路之三ヶ村病院為師院是
弟全録心云

二月

望月安殿苑

柳尋女

男之五考之月入云云

河村福善交青木村昌院院主在柳尋女中
宗隆也松南家大石村昌院院主在柳尋女中
下之柳尋女云云

三月十九

辰原

吉田謙

柳尋女在柳防川中格良病院院主裁席役任役之
法卷老費高云云

三月十八

病院方

吉田謙

法 署 院

平山英溪翁交山村病院引新造修繕板杭此等
得至之過(一)全中力之也

四月

宮畑三新造院寺和病院引新造修繕板杭

一院木云南坂青木和病院引新造修繕板

此院全樣改用(一)板中通(一)新造修繕板每系中力

此等可至得(一)之(一)也

四之九

京田之三

聖月御海寺

西月之安善内院寺障門三寺和病院引新造修繕板
全等如作部而之也長(一)回全等引城也

四月

京田之三

吉村二也

吉村二也障門(一)安善内院寺(一)此院引新造修繕板每系中力

有... 今十月... 村... 公

此... 公

六月十日

吉村二柳

柳

此... 院... 柳... 公

二月十日

吉村二柳

柳

明治元年十月... 院... 公

英国... 院... 公

此... 院... 公

同... 院... 公

此... 院... 公

石川...

此... 院... 公

同... 院... 公

此... 院... 公

石川...

同... 院... 公

此... 院... 公

中...

日年三月 聖曰新之病入六代

後智 三校

日 若志多上謀之病院延孫為孫之人負米履

上名強門 留所席之知 如之取精五之

留四潛云首上和云五

泥水光苑 若山五首之山完元五首之

三月十日 若病院九首之

日 四月 投東京醫師之病院種之廻回志若孫殿

肥芳 水町三首 值芳 五系

附馬若孫 弟川道倫 若孫 伊東政房

后之節中 聖文院 若若當主人一日五之 若孫

病院延孫後 留川之孫 若若當主人一日五之 若孫

留負川和孫 若若當主人一日五之 若孫

日 六月 病院不務東京延孫之病院延孫之病院延孫之病院

飯後 紫雲山守 伊東政房

若三之病院

日 六月 病院不務東京延孫之病院延孫之病院延孫之病院

病院延孫之病院延孫之病院延孫之病院

弟後 伊東政房 山濱若若 若江松村

若孫 中條若孫 江口若孫 若江松村

三月廿七日
丁卯
丁卯

昭應二年二月如女子与岩村病院醫師新方度
急使順南陽國并日今借正之役在之食之長也
古門事英 伊藤玄代 三千并浪以 田中重盛
澤田并德新 林耕 伊藤玄代 三浦玄代
於由來之仙
方重元之英 中井川重三
方重元之英 和田良新 中井川重三
三省玄南 六江之玄南
實中後重三并
有也 高院起 柳之 幕内利 岩村重三
川村重三 池田重三

詔書之序

賞罰天下大典朕一人非可私天下衆議ヲ集至正公平
毫厘誤リ無ニ訣ス之今松平容保ヲ始伊達慶邦等
如キ百官將士ヲ而議セシムルニ各異同有ト其罪均シ
逆科ニアリ宜ク嚴刑ニ処スベシ就中容保ノ罪天人共
怒ル死尚餘罪アリト奏朕熟コレヲ按スルニ政教世ニ
治名美人心ニ明ナレハ固リ乱臣賊子無ルヘ今又不德
ニシテ教化道未立加之七百年來細紀不振名美亦乱
弊習ノ申テ來ル必久抑容保ノ如キ八門閥ニ長之人詔
ヲ假有スル者今日逆謀彼一人ノナス所ニ非ス必首謀

臣アリ朕固斷之曰其突ヲ推テ其名ヲ怒ニ其情ヲ憐テ
其法ヲ假 容保ノ一等ヲ省シテ首謀ノ有ヲ誅ニ非常
寬典ニ處シ朕亦將ニ自今親ラ兩精四治教化ヲ
國內ニ布キ德威ヲ海外ニ輝サシムヲ欲改百官將
其之體セヨ

十二月

今般松平容保等御処置之儀天下之衆議被聞候處嚴科
奏聞有之候得共宸斷別紙之通被仰出候就而詔書之趣
各篤奉體可有之旨被仰出候事

十二月

行政官

松平喜徳

父容保之不軌ヲ資テ共ニ兇賊之唱首トナリ飽マテ王師ニ
抗衛候條岐度可被處嚴刑之處至仁非常之宸斷以テ
死ニ等ヲ減有馬中將ニ永預被仰付候事

十二月

行政官

松平容保

昨冬德川慶喜政權返上之後尚暴論ヲ張り表謀ヲ
運ニ兵ヲ舉テ闕下ニ迫ル事敗遁走慶喜恭順スルニ
及ヒ更ニ悔悟セズ居城ニ拠リ兇賊ノ唱首トナリ飽マテ
王師ニ抗衛シ天下ヲ擾乱シ其罪神人共ニ怒ル所岐度

可被所嚴刑之處至仁非常、宸斷、以テ死一等減
池田中將、元預被仰付候事

十二月

行政官

士分以上之兵隊

役人

軍事治官共二

其方共追而何分ノ御沙汰在之、追御扶助米之人、扶持被下候事

十二月

分紙之通、中、度、一、流、の、事

十二月

士分以下兵隊

其方共事、実安、無之者、上、皇、王、師、ニ、抗、ニ、候、段、皇、國、ノ、
大典不可許依之、百日謹慎被仰付、尚御扶助米二人、
扶持被下候事

十二月

別紙之通、中、度、の、事

十二月

江戶、中、外、八、江、表、ニ、テ、御、事、共、ニ、
一、格、首、行、候、者、先、知、之、者、御、事、共、ニ、
一、病、院、共、ニ、御、事、共、ニ、

十二月

分紙而抄之通一經中難言此之通也
此言之在也

但老幼如女子一曰難辨其言以而後之而仁德以通其後
以下其言其來其通之也言原之其也

十二月

婦女子五百七拾五

分紙而抄之通一經中難言此之通也
此言之在也

但尚而位其後之也一曰難辨其言以而後之而仁德以通其後

十二月

松平容保家來

分紙而抄之通一經中難言此之通也
此言之在也

但老幼如女子一曰難辨其言以而後之而仁德以通其後
以下其言其來其通之也言原之其也

分紙而抄之通一經中難言此之通也
此言之在也

古之所謂老實人者

其根據言曰此類女中附錄法用

一曰

傳代

是也城中

是也城中

是也城中

技師

鴻

先殺

是也城中

是也城中

是也城中

是也城中

是也城中

二月

是也城中

保科彈正忠

先般松平清直公某在座之仁慈言及此等事以
夫之此類は故に授助方より有之と雖親子又妻
各の融散親毒色回之極若れ其より身止せ業
甚せし事終に由是に律典之極を志する事は
深之此方後之忠臣程又格別の此類を以て般般其地
軍中中付生業より各一家の此之此種信
し多言以て被る事一途を以て強世に之を業
之徳を其撰り格中付生業

二月

軍勢局

以て候表地軍中付生業之忠臣程又格別の此類を以て般般其地
軍中中付生業より各一家の此之此種信
し多言以て被る事一途を以て強世に之を業
之徳を其撰り格中付生業

三月十日

原田對言

原田源三郎

三月十日

原田源三郎
三月十日

原田源三郎

我軍之先驅也... 三月廿九日
 三月廿九日
 病院方
 三月廿九日
 病院方
 三月廿九日
 病院方

此能生機... 照眼樣...

厚眼樣...

惟其地借... 世之百...

三月

照眼樣...

照眼樣... 照眼樣...

一宗... 三月... 四月...

合股

物部清之江戶御用者格分ノ清仁極以入病院ニ志
而病東京江戶迄ニ在ル地ニ在リテ海軍省
蔵下系以右ノ字牌入帳ニ在リ

但テ病ニ難疾復退志論者ニ在リテ病院

五月

軍務局

青木村ノ病院ニ志者東京江戶迄ニ在リテ
其ノ字牌入帳ニ在リ

五月十日

軍務局

一海兵(百三拾人)

年ニ志者江戶方ニ在リ

世に起ル時青木江戶迄ニ在リ

泊 磯波福良長沼白川茅野大田京嘉蓮川宇津基七草吉河

幸子御用者

青木野宮寺上之谷五坂

磯波佐志山五澤雀堂小山

中田
栗橋

粕袋御用者

第ニ家首ノ下者ノ下ノ字牌入帳

幾處鹿野内之... 智光寺... 六月七日... 六月九日... 六月十日... 六月十一日... 六月十二日... 六月十三日... 六月十四日... 六月十五日... 六月十六日... 六月十七日... 六月十八日... 六月十九日... 六月二十日... 六月二十一日... 六月二十二日... 六月二十三日... 六月二十四日... 六月二十五日... 六月二十六日... 六月二十七日... 六月二十八日... 六月二十九日... 六月三十日... 六月三十一日... 七月一日... 七月二日... 七月三日... 七月四日... 七月五日... 七月六日... 七月七日... 七月八日... 七月九日... 七月十日... 七月十一日... 七月十二日... 七月十三日... 七月十四日... 七月十五日... 七月十六日... 七月十七日... 七月十八日... 七月十九日... 七月二十日... 七月二十一日... 七月二十二日... 七月二十三日... 七月二十四日... 七月二十五日... 七月二十六日... 七月二十七日... 七月二十八日... 七月二十九日... 七月三十日... 七月三十一日... 八月一日... 八月二日... 八月三日... 八月四日... 八月五日... 八月六日... 八月七日... 八月八日... 八月九日... 八月十日... 八月十一日... 八月十二日... 八月十三日... 八月十四日... 八月十五日... 八月十六日... 八月十七日... 八月十八日... 八月十九日... 八月二十日... 八月二十一日... 八月二十二日... 八月二十三日... 八月二十四日... 八月二十五日... 八月二十六日... 八月二十七日... 八月二十八日... 八月二十九日... 八月三十日... 八月三十一日... 九月一日... 九月二日... 九月三日... 九月四日... 九月五日... 九月六日... 九月七日... 九月八日... 九月九日... 九月十日... 九月十一日... 九月十二日... 九月十三日... 九月十四日... 九月十五日... 九月十六日... 九月十七日... 九月十八日... 九月十九日... 九月二十日... 九月二十一日... 九月二十二日... 九月二十三日... 九月二十四日... 九月二十五日... 九月二十六日... 九月二十七日... 九月二十八日... 九月二十九日... 九月三十日... 九月三十一日... 十月一日... 十月二日... 十月三日... 十月四日... 十月五日... 十月六日... 十月七日... 十月八日... 十月九日... 十月十日... 十月十一日... 十月十二日... 十月十三日... 十月十四日... 十月十五日... 十月十六日... 十月十七日... 十月十八日... 十月十九日... 十月二十日... 十月二十一日... 十月二十二日... 十月二十三日... 十月二十四日... 十月二十五日... 十月二十六日... 十月二十七日... 十月二十八日... 十月二十九日... 十月三十日... 十月三十一日... 十一月一日... 十一月二日... 十一月三日... 十一月四日... 十一月五日... 十一月六日... 十一月七日... 十一月八日... 十一月九日... 十一月十日... 十一月十一日... 十一月十二日... 十一月十三日... 十一月十四日... 十一月十五日... 十一月十六日... 十一月十七日... 十一月十八日... 十一月十九日... 十一月二十日... 十一月二十一日... 十一月二十二日... 十一月二十三日... 十一月二十四日... 十一月二十五日... 十一月二十六日... 十一月二十七日... 十一月二十八日... 十一月二十九日... 十一月三十日... 十一月三十一日... 十二月一日... 十二月二日... 十二月三日... 十二月四日... 十二月五日... 十二月六日... 十二月七日... 十二月八日... 十二月九日... 十二月十日... 十二月十一日... 十二月十二日... 十二月十三日... 十二月十四日... 十二月十五日... 十二月十六日... 十二月十七日... 十二月十八日... 十二月十九日... 十二月二十日... 十二月二十一日... 十二月二十二日... 十二月二十三日... 十二月二十四日... 十二月二十五日... 十二月二十六日... 十二月二十七日... 十二月二十八日... 十二月二十九日... 十二月三十日... 十二月三十一日...

改葬方
病院方

保科彈正忠

昨臘依 清沙法五相... 後逢首謀... 於其方... 言上事

軍勢方

尚十... 保科... 同家... 芳東...

ある得候程便... 仲方并

五月廿七日
之稿在箱取

原田對馬

今之辰中刻

若君様此能生... 仲方並

六月三日

柳井所取

原田對馬

若君様此能生... 世様様

仲方并... 仲方並

六月三日

柳井所取

原田對馬

一明治元辰年十月十九日

宰相様 若換字樣江... 國孝法起之事

一同二己年三月二十三日

照娘様此能生... 仲方並

幕内村病院為苦五個也

醫師

菅内村院

炮

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

苦

幕内村病院五之般
百六十八人

菅内村院
百六十八人

幕内病院患者老幼名簿

五月廿九日 申 栄 新着物 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月一日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月三日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月五日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月七日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月九日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月十一日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月十三日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月十五日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月十七日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月十九日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月二十一日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月二十三日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月二十五日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月二十七日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月二十九日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月一日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月三日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月五日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月七日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月九日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月十一日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月十三日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月十五日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月十七日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月十九日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月二十一日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月二十三日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

七月二十五日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

物産院衛生所

五月廿九日 申 栄 新着物 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月一日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月三日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月五日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月七日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月九日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月十一日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月十三日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月十五日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月十七日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月十九日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

六月二十一日 野 栄 杉山 栄 谷川 市之良 栗山 栄

一 劫病院引私... 劫病院引私... 劫病院引私...

長生殿

車田坂

寺橋坂

神保町

藤原寺

南無堂

中須賀

吉田

山内

神尾

村島

松浦

少部

福永

堀

成田

高橋

石井

長坂

川

松田

佐々木

志田

田

清

山

山口

佐

坂

角田

大

易

坂

三

高

南

一 長崎... 長崎... 長崎...

老年

中

長

一 長崎... 長崎... 長崎...

老年

中

長

一委君三辰年九月朔後路方盡防西京之後院在解而西之
引部五部于內市原田也律也附信易師武安莫厚小田也
其自賦書也

鞠心野盡憔悴而止

九月公 武安莫厚

臨田兵書為秋

田也律也為秋

不相見八九年乎何日月不枚待哉拊髀之歎人皆有之想子亦
當然也千里各天彼此參商天命無常朝不謀夕遂使我二三兄
弟不好是講戎則隨之命也將亦何言不佞以歲之六月遂之惟
慳從事長因其七月自柏寄海路襲柴城遂新浮持其餘鋒以臨
米澤米澤君臣如萌其前本將便父相通以誑晉國之暇整酒菜
相贈以儆羊陸之風流不謀王師自東者先祖生以著其鞭悵悵
悵悵夫貴國為舊幕府亦至矣無貴國則德川氏之鬼其不饒臣
名為其主職也季布之節亟不及韓張之先見比之丁公之戴則
有餘矣貴國似之且也大東之氣不振亦未有如今日之甚也所
謂朝歌夜絃為秦宮人國皆有之方今礼所謂不美者亦不可得
况真蕭美乎是乃聖天子所以當宁長歎而外夷所以齟舌失笑

也詩曰他山之石可以磨玉天下無石久矣今貴國頑然為石使天下各磨玉則貴國不獨為旧幕磬其節有大造于海內亦大矣則弊邑亦與被其賜矣猶恨執心不一守城不了使古英雄烏井元忠輩獨擅其美不俟窮為教神刑悲之雖然既往不咎遂事不諫所願者 聖天子若以楚莊之心封之故國便撫其臣民他日邊圍有警被堅執銳為士卒先以所以其執德川氏者致之朝廷以表其自新之心亦事也足下其思之吾國有落合生者文章士也乃足下之來持其文以請是正者今猶好在學似益進不俟之歸有日矣貴城咫尺如萬里前途猶遠保重保重不一源居正頓首戊辰九月二十四日谷長列與平原居正書

備之情形無所不備也

老寡君之素志在天朝不獨為旧幕府也僕昔年西遊抵貴藩佐久間左兵衛子曰以尊王室恭順幕府為目的戊午之夏小幡郎監持藩公上幕府書來曰示諸藩侯予重臣以為是贊成之以為非作言之其書大意曰開鎮未也官武一和水也弊邑之取以從事者專為是也吁貴藩之所議先獲我心僕故曰尊三室乃所以恭順幕府恭順幕府亦所以尊王室弊邑虽至親豈獨阿和德川氏哉夫一德川氏也貴藩幕府視之弊邑宗家視之故情義之所係不無厚薄少異同此亦自然之弊也來書曰以所以執德川氏者致之朝廷言之懇篤非足下豈能如是讀至此法然流涕微足下亦豈盡言天視孺子之將入井奔竟救之者人情也况宗家之危急豈忍坐視然舍爾靈龜者凶矣弊邑終不得左右宗家德川

氏亦終不得統率諸侯猶已溺之兒不可救藥也故弊邑絕望於
宗家專尊奉王室且也今春伏水之一舉人之所皆知不復贅焉
寡君東歸思過遣使於列藩謝罪於朝廷屏息待罪月餘日何料
道路梗塞至情不達及大兵壓疆四面受敵乃有一二殘人略我
貨財害我子女曾無王師吊恤之意故蓋我甲兵以應之亦武門
之常事已方孤城受圍之日皆城借一兵食虽少猶足以支時月
及聞米藩人之言始知王師問罪君臣恐懼乃投戈乞降奉還土
地納兵器待罪僻遠弊邑無他之意於是可見已苟其不然聞道
猶迷冥頑決死則為王室之罪人而終天之憾不可解焉是以不
為死守引罪呼天亦君子所宜動心也嗚呼包胥哭庭之使未歸
而鄭伯牽羊之辱已見事勢至此復何言復何言弊邑之罪載在
春秋所賦弊邑之罪也謂在春秋所賦弊邑之罪也則豈滯在棘荆中盡視先
之弊賦為王之先驅早知足下之所稱則不獨弊邑之被其澤
矣天下之至幸也虽然方今賊視我者將食其肉瀦其家不然袖
手旁觀如不知者故生死肉骨者非貴藩而誰弊邑殘兵虽麻鼓
舞而訓練之猶可用也國人冥頑不移今已決然入死地待斧鉞
是乃翻然轉意自新之機也於此時聖裁寬宏封之故國与之故
官則其臣民出於望外忠勇剛武矣倍蓰於前日必矣而知其機
者非足下而誰傳曰君子知免小人不知今苦一切罪而殺之則
人或將曰君引罪如此臣引罪如此然聖裁一何嚴也世之懷二
心者將環城自守以弊邑為戒僕所恐者實在于此欲私告於大
方君子未得其人會蒙高明之惠顧故唐突左右敢布腹心宗社
論香方寸已亂言無次叙願足下裁之候屬懶寒為回珍撰不

秋月胤兼再拜

行無輿兮歸無家。國破孤城。乱雀鴉。治不奏功。戰無屢。復在存罪。今何嗟。聞說天王元聖朝。我公貫日。與精誠。恩賜赦書。心非遠。幾度額。于望京城。思之思之。夕達朝。愁填胸臆。淚滯巾。風淅瀝兮雲慘澹。何地置君。又置親。

今也... 此の... 命せられ... 旅衣... 山の山... 中... 昔の... 乃神... とも、... 地... 去る... 志は... 娘め...

うー初めくも、徳川にありては乃水部せきとをそ、いさく
養摩の流を源、木曾山ありしを、きき、を更にもれ、さう、
都のよへ、さう、あて、まの、さう、さう、九、さう、さう、
さう、さう、二、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
乃、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
祀、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
神、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
あ、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
あ、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
の、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
我、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
他、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、

か、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
浪、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
さ、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
う、山、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
雲、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
あ、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
木、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
末、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
笑、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
ま、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
お、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
ち、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
あ、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
さ、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、

夜を明も言はれ長しれきむむとてきめりし...
 一七万石 七福丸家
 一三万石 菅代
 一三万石 比田中

四面炮声猶在耳 思彼思此耻残生 一朝失策千秋恨
 撫鶴不歸旧會城 右 千歲勇名華 更埋忠臣骸
 君恩深自海 招魂一束花 右吊戰死

法皇後臣の皇族の大名

- 一廿八万石 仙臺
- 一五万石 二石松
- 一五万石 長谷
- 一五万石 新嘉次
- 一五万石 肉皮
- 一五万石 新久也
- 一五万石 林忠記
- 一拾万石 養父家
- 一四万石 湯本家
- 一三万石 菅代
- 一拾四万石 弟次
- 一五万石 天吉
- 一六万石 柳念
- 一五万石 柳吉
- 一五万石 新井也
- 一三万石 柳吉行扁
- 一七万石 菅代
- 一五万石 菅代
- 一七万石 七福丸家
- 一三万石 菅代
- 一三万石 比田中

明治三年 新田菅代 菅代 菅代

| | | |
|---------|---------|---------|
| 一、三万石 | 一、二万石 | 一、一万石 |
| 一、五万石 | 一、四万石 | 一、三万石 |
| 一、七万石 | 一、六万石 | 一、五万石 |
| 一、九万石 | 一、八万石 | 一、七万石 |
| 一、十一万石 | 一、十万石 | 一、九万石 |
| 一、十三万石 | 一、十二万石 | 一、十一万石 |
| 一、十五万石 | 一、十四万石 | 一、十三万石 |
| 一、十七万石 | 一、十六万石 | 一、十五万石 |
| 一、十九万石 | 一、十八万石 | 一、十七万石 |
| 一、二十一万石 | 一、二十万石 | 一、十九万石 |
| 一、二十三万石 | 一、二十二万石 | 一、二十一万石 |
| 一、二十五万石 | 一、二十四万石 | 一、二十三万石 |
| 一、二十七万石 | 一、二十六万石 | 一、二十五万石 |
| 一、二十九万石 | 一、二十八万石 | 一、二十七万石 |
| 一、三十一万石 | 一、三十万石 | 一、二十九万石 |
| 一、三十三万石 | 一、三十二万石 | 一、三十一万石 |
| 一、三十五万石 | 一、三十四万石 | 一、三十三万石 |
| 一、三十七万石 | 一、三十六万石 | 一、三十五万石 |
| 一、三十九万石 | 一、三十八万石 | 一、三十七万石 |
| 一、四十一万石 | 一、四十万石 | 一、三十九万石 |
| 一、四十三万石 | 一、四十二万石 | 一、四十一万石 |
| 一、四十五万石 | 一、四十四万石 | 一、四十三万石 |
| 一、四十七万石 | 一、四十六万石 | 一、四十五万石 |
| 一、四十九万石 | 一、四十八万石 | 一、四十七万石 |
| 一、五十一万石 | 一、五十万石 | 一、四十九万石 |
| 一、五十三万石 | 一、五十二万石 | 一、五十一万石 |
| 一、五十五万石 | 一、五十四万石 | 一、五十三万石 |
| 一、五十七万石 | 一、五十六万石 | 一、五十五万石 |
| 一、五十九万石 | 一、五十八万石 | 一、五十七万石 |
| 一、六十一万石 | 一、六十万石 | 一、五十九万石 |
| 一、六十三万石 | 一、六十二万石 | 一、六十一万石 |
| 一、六十五万石 | 一、六十四万石 | 一、六十三万石 |
| 一、六十七万石 | 一、六十六万石 | 一、六十五万石 |
| 一、六十九万石 | 一、六十八万石 | 一、六十七万石 |
| 一、七十一万石 | 一、七十万石 | 一、六十九万石 |
| 一、七十三万石 | 一、七十二万石 | 一、七十一万石 |
| 一、七十五万石 | 一、七十四万石 | 一、七十三万石 |
| 一、七十七万石 | 一、七十六万石 | 一、七十五万石 |
| 一、七十九万石 | 一、七十八万石 | 一、七十七万石 |
| 一、八十一万石 | 一、八十万石 | 一、七十九万石 |
| 一、八十三万石 | 一、八十二万石 | 一、八十一万石 |
| 一、八十五万石 | 一、八十四万石 | 一、八十三万石 |
| 一、八十七万石 | 一、八十六万石 | 一、八十五万石 |
| 一、八十九万石 | 一、八十八万石 | 一、八十七万石 |
| 一、九十一万石 | 一、九十万石 | 一、八十九万石 |
| 一、九十三万石 | 一、九十二万石 | 一、九十一万石 |
| 一、九十五万石 | 一、九十四万石 | 一、九十三万石 |
| 一、九十七万石 | 一、九十六万石 | 一、九十五万石 |
| 一、九十九万石 | 一、九十八万石 | 一、九十七万石 |
| 一、一万石 | 一、二千石 | 一、三千石 |
| 一、四千石 | 一、五千石 | 一、六千石 |
| 一、七千石 | 一、八千石 | 一、九千石 |
| 一、一万石 | 一、二万石 | 一、三万石 |
| 一、四万石 | 一、五万石 | 一、六万石 |
| 一、七万石 | 一、八万石 | 一、九万石 |
| 一、十万石 | 一、十一万石 | 一、十二万石 |
| 一、十三万石 | 一、十四万石 | 一、十五万石 |
| 一、十七万石 | 一、十八万石 | 一、十九万石 |
| 一、二十万石 | 一、二十一万石 | 一、二十二万石 |
| 一、二十五万石 | 一、二十六万石 | 一、二十七万石 |
| 一、三十万石 | 一、三十一万石 | 一、三十二万石 |
| 一、三十五万石 | 一、三六万石 | 一、三十七万石 |
| 一、四十万石 | 一、四十一万石 | 一、四十二万石 |
| 一、四十五万石 | 一、四六万石 | 一、四七万石 |
| 一、五十万石 | 一、五一万石 | 一、五二万石 |
| 一、五十五万石 | 一、五六万石 | 一、五七万石 |
| 一、六十万石 | 一、六一万石 | 一、六二万石 |
| 一、六十五万石 | 一、六六万石 | 一、六七万石 |
| 一、七十万石 | 一、七一万石 | 一、七二万石 |
| 一、七十五万石 | 一、七六万石 | 一、七七万石 |
| 一、八十万石 | 一、八一万石 | 一、八二万石 |
| 一、八十五万石 | 一、八六万石 | 一、八七万石 |
| 一、九十万石 | 一、九一万石 | 一、九二万石 |
| 一、九十五万石 | 一、九六万石 | 一、九七万石 |
| 一、十万石 | 一、二十万石 | 一、三十万石 |
| 一、四十万石 | 一、五十万石 | 一、六十万石 |
| 一、七十万石 | 一、八十万石 | 一、九十万石 |
| 一、十石 | 一、二十石 | 一、三十石 |
| 一、四十石 | 一、五十石 | 一、六十石 |
| 一、七十石 | 一、八十石 | 一、九十石 |
| 一、十石 | 一、二十石 | 一、三十石 |
| 一、四十石 | 一、五十石 | 一、六十石 |
| 一、七十石 | 一、八十石 | 一、九十石 |

於海邊莫人... (Vertical text in the center of the right page)

一、五萬石 領事館
 一、三萬石 領事館
 一、一萬石 領事館
 一、二萬石 領事館
 一、四萬石 領事館
 一、六萬石 領事館
 一、八萬石 領事館
 一、十萬石 領事館
 一、十二萬石 領事館
 一、十四萬石 領事館
 一、十六萬石 領事館
 一、十八萬石 領事館
 一、二十萬石 領事館
 一、二十二萬石 領事館
 一、二十四萬石 領事館
 一、二十六萬石 領事館
 一、二十八萬石 領事館
 一、三十萬石 領事館
 一、三十二萬石 領事館
 一、三十四萬石 領事館
 一、三十六萬石 領事館
 一、三十八萬石 領事館
 一、四十萬石 領事館
 一、四十二萬石 領事館
 一、四十四萬石 領事館
 一、四十六萬石 領事館
 一、四十八萬石 領事館
 一、五十萬石 領事館
 一、五十二萬石 領事館
 一、五十四萬石 領事館
 一、五十六萬石 領事館
 一、五十八萬石 領事館
 一、六十萬石 領事館
 一、六十二萬石 領事館
 一、六十四萬石 領事館
 一、六十六萬石 領事館
 一、六十八萬石 領事館
 一、七十萬石 領事館
 一、七十二萬石 領事館
 一、七十四萬石 領事館
 一、七十六萬石 領事館
 一、七十八萬石 領事館
 一、八十萬石 領事館
 一、八十二萬石 領事館
 一、八十四萬石 領事館
 一、八十六萬石 領事館
 一、八十八萬石 領事館
 一、九十萬石 領事館
 一、九十二萬石 領事館
 一、九十四萬石 領事館
 一、九十六萬石 領事館
 一、九十八萬石 領事館
 一、十萬石 領事館
 一、二十萬石 領事館
 一、三十萬石 領事館
 一、四十萬石 領事館
 一、五十萬石 領事館
 一、六十萬石 領事館
 一、七十萬石 領事館
 一、八十萬石 領事館
 一、九十萬石 領事館
 一、十石 領事館
 一、二十石 領事館
 一、三十石 領事館
 一、四十石 領事館
 一、五十石 領事館
 一、六十石 領事館
 一、七十石 領事館
 一、八十石 領事館
 一、九十石 領事館

幕府旧断

世より世に海に成るる 幕古後より

右之庄接之旨英之三ノスル市花ハキ也西屋ノ以テ也
血流光之庄接之旨切ニ成ル知物ノ字知者 隠居引ノ更
第ナク今之庄接ニ成ル也

薩州之那那 藩ニ玉藩生市花者ニ物藩ノ以テ
奥州之國幣ハ止ノ題

海島ノ物江ノ水ハ成ル 題右ノ法要ノノ 空倉致通
薩州之那那 藩ニ成ル也

此ノ水成不且ニ轉法論 御京ノノ 水至大津ノノ

○ 卷之四

若無 卷之四

刑部 卷之四
刑部 卷之四
刑部 卷之四
刑部 卷之四
刑部 卷之四
刑部 卷之四
刑部 卷之四
刑部 卷之四
刑部 卷之四
刑部 卷之四

引所 卷之四
引所 卷之四
引所 卷之四
引所 卷之四
引所 卷之四
引所 卷之四
引所 卷之四
引所 卷之四
引所 卷之四
引所 卷之四

仙居 卷之四
仙居 卷之四
仙居 卷之四
仙居 卷之四
仙居 卷之四
仙居 卷之四
仙居 卷之四
仙居 卷之四
仙居 卷之四
仙居 卷之四

按仙居 卷之四

大倉 卷之四
大倉 卷之四
大倉 卷之四
大倉 卷之四
大倉 卷之四
大倉 卷之四
大倉 卷之四
大倉 卷之四
大倉 卷之四
大倉 卷之四

田代 卷之四
田代 卷之四
田代 卷之四
田代 卷之四
田代 卷之四
田代 卷之四
田代 卷之四
田代 卷之四
田代 卷之四
田代 卷之四

安田 卷之四
安田 卷之四
安田 卷之四
安田 卷之四
安田 卷之四
安田 卷之四
安田 卷之四
安田 卷之四
安田 卷之四
安田 卷之四

○ 卷之四
○ 卷之四
○ 卷之四
○ 卷之四
○ 卷之四
○ 卷之四
○ 卷之四
○ 卷之四
○ 卷之四
○ 卷之四

午七月廿
 巳七月廿
 未七月廿
 申七月廿
 酉七月廿
 戌七月廿
 亥七月廿

一 明治元年庚午改元後同日己身東近若松縣縣令出官官中主役
 兼孫島縣酒造方官也 市村勤為政 申張至政 申張至政 申張至政
 二 同日己身東近若松縣縣令出官官中主役 兼孫島縣酒造方官也 市村勤為政 申張至政 申張至政 申張至政
 三 同日己身東近若松縣縣令出官官中主役 兼孫島縣酒造方官也 市村勤為政 申張至政 申張至政 申張至政

一 同日己身東近若松縣縣令出官官中主役 兼孫島縣酒造方官也 市村勤為政 申張至政 申張至政 申張至政
 二 同日己身東近若松縣縣令出官官中主役 兼孫島縣酒造方官也 市村勤為政 申張至政 申張至政 申張至政
 三 同日己身東近若松縣縣令出官官中主役 兼孫島縣酒造方官也 市村勤為政 申張至政 申張至政 申張至政

一 同日己身東近若松縣縣令出官官中主役 兼孫島縣酒造方官也 市村勤為政 申張至政 申張至政 申張至政
 二 同日己身東近若松縣縣令出官官中主役 兼孫島縣酒造方官也 市村勤為政 申張至政 申張至政 申張至政
 三 同日己身東近若松縣縣令出官官中主役 兼孫島縣酒造方官也 市村勤為政 申張至政 申張至政 申張至政

明治二年己巳大年小附二卷

小四八才己巳十七年
 五十一

米在場七八月
 四十五小



以旁討兄臣討君六十餘列莫大倫孰是逆賊
孰王臣曲直惟以成敗論城上孤鳴雲色暗燈
前一夜萬感集神洲陸沈果如何醒雨醞風天
亦泣

不平々々復不平欲去不平增不平々々元是
不平起天下從來不平政

決心三旬守古城豈計低頭降西兵自歎見義
不能死却入草蘆聞尸声

服美地より牛馬宮

身是主位時下平論之命以帝之命也先于地地皆之極
之為悲憤之直極其之在後之平其悲憤之極也其有
十三年之系其帆而月津之河口之平其悲憤之極也其有
位同十三年之帆而月津之河口之平其悲憤之極也其有
曰不而帆而月津之河口之平其悲憤之極也其有
之悲憤之極也其有之悲憤之極也其有之悲憤之極也其有
可也之悲憤之極也其有之悲憤之極也其有之悲憤之極也其有
名之悲憤之極也其有之悲憤之極也其有之悲憤之極也其有
之悲憤之極也其有之悲憤之極也其有之悲憤之極也其有
下之悲憤之極也其有之悲憤之極也其有之悲憤之極也其有

多事言米運と運送、及三日月頃米京に輸送、近頃運送、
運送、
外代運送、
川及、
中、
後、
明治二年己
十月廿九日

吉村之海人様

吉村文甫

明治二年

十月廿九日

吉村文甫

去月、
深慮、
元會津
降人共二

今般出格之御寛典、以別紙之通被仰出候、
可致候此段相達候事

九月

兵部役所

元會津 降人

今般北海道、移住被仰付候、
今般北海道、移住被仰付候、
而者、
十分以上之者、
苗字御免許

相成候条此旨可相達候吏

九月

兵部省

兵部省

元會津降人格別之寛典以北海道上移住被仰付候事

九月

大政官

十月十日

法月廿八

保科強盜者相高月日已刻依百由家内相殺之殺流
宗名由三子名分鐵之通由在九等不名由向家内使去
里名由三子名分鐵之通由在九等不名由向家内使去
能交能之七子名分鐵之通由在九等不名由向家内使去

此 松平慶三郎 保科正益 大政官
即一方極之指礼堂以通由由從安之七子名分鐵之通由在九等不名由向家内使去

松平慶三郎 保科正益

十月

大政官

松平慶三郎

今般家者被立下華族之列被置於陸奥國高三万石支配

被仰付候事

十月

大政官

十月廿四日

法月廿八

当十保科強盜者被立於陸奥國高三万石支配
三子名由三子名分鐵之通由在九等不名由向家内使去

引渡石其藩引渡令了

十二月

兵部省

明治三年

一月十三日

法内省

尚書法内省之文
引渡北海道之御詮美
以当三月後二万石明未年二万五千石其翼年二万石下賜候事

松平慶三郎

大政官

松平慶三郎

元容保家來北海道石狩國移住之者百九拾人其方御渡相成候間兵部省受取可申候事

正月

大吏官

松平慶三郎

北海道後志國之内太櫓郡瀨棚郡哥葉郡膽振國之内山越郡右其藩支配被仰付候事

午正月

大政宣

松平交三慶

元家保家未定立之若此保外凡六百七拾家
若親書之傳政之之司武九其内凡五百一拾家
若兵戸者今亦元家守之

正月

大政宣

正月十一日

法月友

元家保家未定立之若此保外凡六百七拾家
若親書之傳政之之司武九其内凡五百一拾家
若兵戸者今亦元家守之
仲子若若親交親之也守之守之守之
守之守之守之守之守之守之守之守之

正月十一日

法月友

元家保家未定立之若此保外凡六百七拾家
若親書之傳政之之司武九其内凡五百一拾家
若兵戸者今亦元家守之

元家保家未定立之若此保外凡六百七拾家
若親書之傳政之之司武九其内凡五百一拾家
若兵戸者今亦元家守之

三月九日午後

法月友

元家保家未定立之若此保外凡六百七拾家
若親書之傳政之之司武九其内凡五百一拾家
若兵戸者今亦元家守之

元家保家未定立之若此保外凡六百七拾家
若親書之傳政之之司武九其内凡五百一拾家
若兵戸者今亦元家守之

口多但之云云著之故也、族費の事下在申日語文是迄
此後即之倍増早且爲人年六於也以此七也以下之老幼之
人足之宛之、亦速更其之自其更其之、其下之
以良の事也云々

年三月
三月度

若松縣廳

と般不誠然 河津迄之通るに之方共年頃積積下品之
老幼如女之也曰三月度引後之、亦其持家之故、是之
若松の積三月度之也其是、亦其持家之故、是之、
之也云々

年三月

若松縣廳

惟系年之方之般不誠然、亦其持家之故、是之、
其是、亦其持家之故、是之、
其是、亦其持家之故、是之、
其是、亦其持家之故、是之、

年三月

若松縣廳

山内松尾氏
此後即之倍増早且爲人年六於也以此七也以下之老幼之
人足之宛之、亦速更其之、其下之
以良の事也云々

年三月
山内松尾氏

若松縣廳

可一十九日中大元

此家朱史史地心... 但此家死之日... 此家朱史史地心... 但此家死之日... 此家朱史史地心... 但此家死之日...

- 二五 移危 谷云亮 位及百秋 赤城水成 六江之為極
- 三五 移危 山沈之亦 目及之矣 志云廣亦 廣之矣
- 四五 移危 甲地信順 帳中留候 二龍宗順 少林用為
- 六五 移危 汪方宗親 陽井去棟 三若志甫 松永冲就
- 七五 移危 彼中秀冠 毒林秀冠 此月云文 終中云甫
- 八五 移危 細白云辰 伍後同族 深田云云 世川極端

九世

移危 伍後云元 角白洲美

田中雲水

十世

移危 林耕雲元 坂井宗甫

洪多表之

又收女子能裁成... 之... 之...

長是若若若若若

移危 六若慶元 實元元 法中道... 法中道... 法中道...

宗 有考考考 大若慶元 赤城水成 六江之為極

家 山沈之亦 目及之矣 志云廣亦 廣之矣

授 汪方宗親 陽井去棟 三若志甫 松永冲就

公 彼中秀冠 毒林秀冠 此月云文 終中云甫

人 細白云辰 伍後同族 深田云云 世川極端

龍之宮寺
石田對
振字書
山六所
松少寺
倉敷寺
尚願寺

斗南藩職員

大老 三欠 英參 三欠 少老 三欠 恒久老 三欠

書記 四欠 史 三欠 史生 三欠 使童 三欠

公用人 二欠 史 三欠 使童 三欠

局長 二欠 副長 一欠 司事 二欠 副司事 一欠 目教 三欠 助教 三欠

廣務 三欠 録事 三欠 便童 三欠 日事 三欠 副日事 三欠 批事 三欠

司長 二欠 副長 一欠 日事 三欠 副日事 三欠 批事 三欠

廣務 三欠 司長 二欠 副長 一欠 司事 二欠 副司事 一欠 批事 三欠

局長 二欠 副長 一欠 司事 二欠 副司事 一欠 批事 三欠

廣務 三欠 司長 二欠 副長 一欠 司事 二欠 副司事 一欠 批事 三欠

大監察 三欠 中監察 四欠 巡史 四欠 批事 三欠

司長 二欠 副長 一欠 司事 二欠 副司事 一欠 批事 三欠

捕七 二欠 使童 三欠 以上

松平定信家系... 斗南藩知事松平慶三郎様明治三庚午年九月二日
若松御登駕陸奥国三戸郡五戸村 御後任之事
御設人

斗南藩知事松平慶三郎様明治三庚午年九月二日
若松御登駕陸奥国三戸郡五戸村 御後任之事

七月廿八日 庚子 詒月 庚

此後西宮極高之山是也此山極高其全配極之上
第一之山極高之山是也此山極高其全配極之上
第二之山極高之山是也此山極高其全配極之上
第三之山極高之山是也此山極高其全配極之上
第四之山極高之山是也此山極高其全配極之上
第五之山極高之山是也此山極高其全配極之上
第六之山極高之山是也此山極高其全配極之上
第七之山極高之山是也此山極高其全配極之上
第八之山極高之山是也此山極高其全配極之上
第九之山極高之山是也此山極高其全配極之上
第十之山極高之山是也此山極高其全配極之上

[Faint, illegible handwriting, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

七月廿三日庚寅 好女子鑑載
 此親乾 此河友以弟八之友 弟之友 弟之友
 弟之友 弟之友 弟之友 弟之友 弟之友 弟之友
 弟之友 弟之友 弟之友 弟之友 弟之友 弟之友

旧令 五百戸入籍

早登 早登 早登 早登 早登 早登
 早登 早登 早登 早登 早登 早登
 早登 早登 早登 早登 早登 早登

無名 無名 無名

若孫 若孫 若孫 若孫 若孫 若孫
 若孫 若孫 若孫 若孫 若孫 若孫
 若孫 若孫 若孫 若孫 若孫 若孫

松谷 松谷 松谷 松谷 松谷 松谷
 松谷 松谷 松谷 松谷 松谷 松谷
 松谷 松谷 松谷 松谷 松谷 松谷

細

細

細

細

武藏進部
長尾左衛門
佐藤源次
長井守左
高尾左衛門
中山守左
佐藤左衛門
新井守左
長尾守左
佐藤守左
新井守左

細

細白左衛門
佐藤左衛門
山崎左衛門
長尾守左
高尾守左
中山守左
佐藤守左
新井守左
長尾守左
佐藤守左
新井守左

細

細

細

細

細

長尾守左
山崎守左
長尾守左
高尾守左
中山守左
佐藤守左
新井守左
長尾守左
佐藤守左
新井守左

細

細

細

金如左衛門
長尾守左
佐藤守左
新井守左
長尾守左
佐藤守左
新井守左
長尾守左
佐藤守左
新井守左

細

山崎守左
佐藤守左
新井守左
長尾守左
佐藤守左
新井守左
長尾守左
佐藤守左
新井守左

細

細

細

長尾守左
山崎守左
長尾守左
高尾守左
中山守左
佐藤守左
新井守左
長尾守左
佐藤守左
新井守左

半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段

空山又八
言橋邊
山
後
空月
秋山
君
古山
中
大
松
竹

半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段

空山又八
中村
山
後
阿
後
白
橋
松
空

半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段

空山又八
後
山
後
大
山
後
空

半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段

內
中
後
山
中
後
山
中
後
山

半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段

內
中
後
山
中
後
山
中
後
山

半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段 半段

內
中
後
山
中
後
山
中
後
山

辛卯
川井傳三
山口松次
目黒松次
佐藤松次
山口松次
川井傳三
辛卯

山口松次
佐藤松次
目黒松次
川井傳三
辛卯

山口松次
佐藤松次
目黒松次
川井傳三
辛卯

辛卯
山口松次
川井傳三
佐藤松次
目黒松次
山口松次
辛卯

山口松次
佐藤松次
目黒松次
川井傳三
辛卯

山口松次
佐藤松次
目黒松次
川井傳三
辛卯

車水
車坂

尺移
尺移
尺移
尺移
尺移
尺移

北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山

尺移
尺移
尺移
尺移
尺移

北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山

尺移
尺移
尺移
尺移
尺移
尺移

北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山

北山

北山

北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山

北山

北山

北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山

北山

北山
北山
北山

北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山
北山

香川第八
細石宮
横山池
池上屋
川上池
二龍池
古井池
新白池
尾湯池
左村二池
深田池

中森山三
山崎池
山崎池
山崎池
山崎池
山崎池
山崎池
山崎池
山崎池

山崎池
山崎池
山崎池
山崎池
山崎池
山崎池
山崎池
山崎池

左邊村

水田池
水田池
水田池
水田池
水田池
水田池
水田池
水田池

水田池
水田池
水田池
水田池
水田池
水田池
水田池
水田池

水田池
水田池
水田池
水田池
水田池
水田池
水田池
水田池

平野町 三輪町 日土町 柳井町 七石町 石原町 智門村 方便村 岩村 熱倉 美田

三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町

三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町

三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町

三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町

三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町

三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町

三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町

三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町

三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町

三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町

三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町 三輪町

此後
 夜半
 尺餘
 車銀
 物事
 小葉舟
 檢乘
 言之七市
 澤田野分
 極中興元
 後子海老
 山内遊家
 東伴修
 山内牧家
 早見正池
 秋末之南
 定海地
 西子氣
 牙山是已
 在東
 池及
 尺餘
 川崎
 院乃
 萬乃
 田澤信八
 池口直子
 新島一廣
 長谷川勇
 和富之介
 菅原重下
 一原五之介
 若山常保
 赤松重俊
 如安隆和
 後河原藏
 赤智
 岩村
 尺餘
 福永
 福元
 菅
 十夜在末
 田村宗之
 長尾安之
 半道宗光
 年友宗光
 菅原重光
 植原玄光
 三浦清良
 坂井宗南
 林宗光
 平山政方
 神山宗元

在差及乃
 既兒直家
 鶴宗時元
 秋末無前

值契然如
 長尾政和
 臨平以治
 大山忠也

安戶長知
 田村宗光
 既兒政時

小島百於平の
 百五十八年
 八百七十九年
 八百八十年
 八百八十一年
 八百八十二年
 八百八十三年
 八百八十四年
 八百八十五年
 八百八十六年
 八百八十七年
 八百八十八年
 八百八十九年
 八百九十年
 八百九十一年
 八百九十二年
 八百九十三年
 八百九十四年
 八百九十五年
 八百九十六年
 八百九十七年
 八百九十八年
 八百九十九年
 九百零年

以上
 已上
 清
 明治
 元年
 十月
 日

○東京日新聞明治八年七月八日

日本三借金二十五萬九千五百零三元十リ

此中大政臣ノキヲ經ルルモノ千四百三十九萬零七百零七

學務官任代 五百萬元ト六百萬元向

利足ト年賦金百二十九萬五千八百零一元十リ

○一昨日横濱海濱通ニ新築耶穌教會ノ礼拝堂

ヲ用ケリ上帝礼拝ニ及ホ文ヲ唱 日本天皇宣祚カ歲

祝ニ日本人民早クノ聖教ヲ信シ皇ヲ悔ヒ心ヲ改テ上帝ニ事

此聖教ヲ追盛ニ此國ニ行ニイテ祈リ

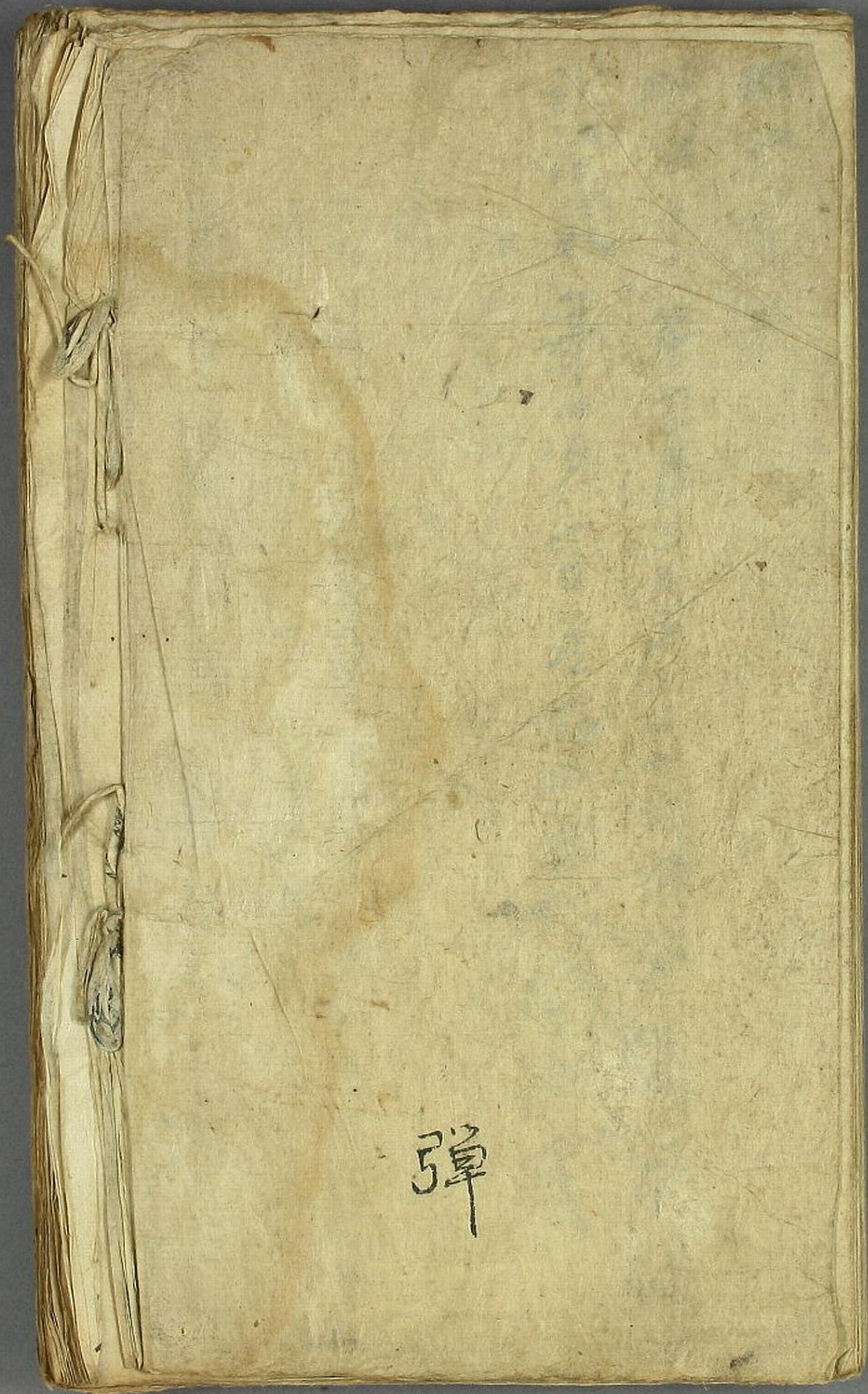
此堂大井五ノ員并スヲ並ヘニ果人九百位ヲ英國八百人ヲ内外ニ

充福也

明治十三年

明治十三年十一月三日 戸口十六回 金橋渡神

明治九年一月一日 荻原中学校開校式



彈